

日 時 平成26年10月10日(金) 8:50～9:35

場 所 附属小第1音楽室

指導者 三浦 志保

本授業の主張点

本授業では、カードを並べたり旋律を歌い比べたりする活動を通して、楽曲の調性の変化を可視化しながら鑑賞を行います。調性の変化によって楽曲の気分が変わる面白さを感じ取って聴取する児童の姿をめざします。

1 題材名 ちょうちょう ちょうちょう 気分が か～わった

【調性】

2 題材の目標

- 長調や短調の特徴をつかみ、調性によって生み出される楽曲の気分を感じ取って、音楽を表現し、鑑賞できる。

3 評価規準「学力デザイン レベル1より」

評価の観点	ア 音楽への 関心・意欲・態度	イ 音楽表現の 創意工夫	ウ 音楽表現の 技能	エ 鑑賞の能力
評価規準	長調や短調でつくられた楽曲に関心を持ち、歌唱や節づくり、鑑賞の学習に進んで取り組もうとしている。	長調の節を短調の節に変え、2つの節の組合せ方を工夫して、節づくりをしている。	①長調と短調の楽曲の気分の違いを感じ取って、楽曲の気分に合うように歌っている。 ②3つの音を組み合わせ、長調の節づくりをしている。	長調と短調の違いによる楽曲の気分の違いを聴き取り、その調性が生み出す面白さを感じ取って聴取している。

4 題材設定の理由

(1) 児童の実態

本学級は、音楽が好きな児童が多く、歌唱活動や鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。音楽の授業だけでなく、朝の会で毎日歌を歌い、多くの歌唱曲に親しんでいる。しかし、児童にとって長調の歌唱曲は身近であるが、短調の歌唱曲は歌集に数曲しか載っていないことや、教材曲として取り扱っていないことから、短調の楽曲にあまり馴染みがない。また、これまでに歌詞の内容や音色、リズムなどから楽曲の様子や気分について考える学習に取り組んだことはあるが、調性について考えた経験はほとんどない。

児童は、「明るい」「暗い」という言葉上の意味について感覚的には分かっている。しかし、どのような音楽の構成要素によって「明るさ」が生み出されているのかというところまでは、理解していない。細かいリズムや速度、音色によって「明るさ」を感じる児童は多いが、それが調性によって生み出されていることに気付いている児童は少ない。

鑑賞活動については、音が聴こえてくると自然に体を動かし、楽しんで活動する姿が見られる。楽曲を聴いて気付いたことを積極的に発表している。しかし、音楽をイメージする言葉や感じたことを表現するための語彙が少ないため、自分が感じたことを上手く言葉で表せないことがある。

(2) 題材の意義

本題材は、調性の変化によって、楽曲の気分の変化が生み出される面白さに気付かせることをねらいとしている。このことは、本校、学力デザインにおける【調性】のレベル1「長調と短調の違いを感じ取る」に当たる。本題材で取り扱う調性については、「中学年においては長調を、高学年においては長調及び短調を取り扱うこととする」と学習指導要領に明記されている。小中連携を進める中で、中学校段階において、長調と短調の違いを感じ取ることが難しい生徒がいるという

実態が分かってきた。このことから、低学年段階において、学習指導要領の中で調性について触れられてはいないが、この時期に長調と短調の特徴やその違いについて学習することは意義深い。長音階でつくられた楽曲を長調の曲、短音階でつくられた楽曲を短調の曲というように、調性は音階（音列）によって決まる。しかし、本題材では、低学年という発達の段階を踏まえ、音階の仕組みについて触れるのではなく、旋律の中のある音を変えるだけで調性が変わるところまででとどめておく。歌唱活動や聴取活動を通して、長調と短調の響きをたくさん感受することに重点を置く。本題材での経験が、中学年での長調の仕組み、高学年での短調の仕組みの学習へと段階的につながっていくと考える。

(3) 指導上の着眼点（視点の具体化の側面から）

本研究の視点「音楽への感受を高めるために、音楽を構造に基づいて分析する場を設定する」において、児童に以下の点を捉えてほしい。

- ・ 楽曲が長調や短調に変化していくこと。
- ・ 調性の変化することで、楽曲の気分も変化すること。

指導にあたっては、第1次で長調と短調の感じの違いに気付かせていく。そのために、比較ができるように長調と短調の教材曲を複数取り扱う。今回初めて調性について取り扱うので、それぞれの調の教材曲を歌ったり聴取したりして気付いたことや感じたことを伝え合う場を設定する。音楽の語彙を増やすことで、長調と短調の特徴をつかむことができるようにする。

それぞれの調性の特徴をつかんだ上で、第2次では、長調と短調の節づくりを設定する。本題材では、音階の仕組みについて触れないので、長調と短調の音階を使って節づくりをするのではなく、ハ長調の節をつくり、主音から3音目を半音下げてハ短調（同主短調）の節にする活動を仕組む。つくった節を楽譜に記す際は、おはじきを使用する。五線譜の上に乘せたおはじきの位置を移動させるだけで、低学年の児童にも簡単に自分がつくった節を記録することができる。また、短調の節の楽譜をつくる際には、ハ長調の節の第3音においているおはじきの色を変えるようにさせる。おはじきの色を変えることで、簡単に調を変えることができる。第3音の変化と調性に関わっていることに気付かせるためにも、楽譜をつくって可視化することは有効的である。

本時である第3次では、歌唱や節づくりを通してつかんだ、長調と短調の特徴をもとに鑑賞を行う。鑑賞曲の調性の変化を児童が可視化しながら聴取できるようにする。そのために、旋律を長調や短調に変えて歌い比べる活動を仕組む。同じ旋律を長調や短調に変えて歌うので、低学年の児童でも違いに気付くことができる。また、鑑賞曲の調性がどのように変化していくのか分かるように、短調と長調に色分けしたカードを並べながら聴取する活動を仕組む。色カードを並べることで、鑑賞曲は短調と長調が交互に演奏されていることを可視化できる。鑑賞曲に対しての自分の考えをもたせるために、鑑賞曲の仕組みをつかむことでとどまらず、鑑賞曲のよさや面白さなど、どんなところをおすすめしたいか、おすすめポイントを問う。

5 教材について

教材曲A	ちょうちょう	作詞者不明	ドイツ民謡
教材曲B	いるかは ざんぶらこ	東龍男作詞	若松正司作曲
教材曲C	山の ポルカ	芙龍明子日本語詞	チェコ民謡 飯沼信義編曲
教材曲D	小さい秋みつけた	サトウハチロー作詞	中田喜直作曲
教材曲E	小さな木の実	海野洋司作詞	ビゼー作曲 石川皓也編曲
教材曲F	チム チム チェリー	あらかわひろし日本語詞	
		R.M.シャーマン作詞	R.B.シャーマン作曲
鑑賞曲G	「アルルの女」第2組曲から	ファランドール	ビゼー作曲

教材曲Aは、ハ長調の歌唱曲である。主音の第3音を半音下げることで、長調から短調の旋律に聴こえる。児童にとって耳慣れた旋律なので、短調で演奏したときに変化が分かりやすいことから聴き比べをするのに適した教材曲である。

教材曲B、Cは、長調の歌唱曲である。既習曲でもあり児童にとって身近な教材曲なので自分で歌いながら曲の感じを確かめることができる。

教材曲D～Fは、短調の歌唱曲である。教材曲A～Cとは楽曲の感じが明らかに異なるので、長調と短調の違いを比較しやすい楽曲である。

鑑賞曲Gは、短調と長調が繰り返し演奏される楽曲である。旋律が繰り返し演奏されるので、児童も覚えやすく、調性を変えて歌い比べる活動を仕組むこともできる。調性の変化をつかむのに適した楽曲である。

6 指導計画（全4時間）（ は視点）

次	時	教材	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	1	ABC DEF ↓	ちようちようとたんちようのちがいを見つけてうたおう - 教材曲 A～F を歌い長調と短調に分類し、楽曲の気分の違いについて話し合う。 - 短調の教材曲 A を聴き、調の違いによる気分の違いについて話し合う。	- 長調と短調の違いに気付くことができるように、複数の教材曲を取り扱う。 - 調性によって楽曲の気分が変わることに気付かせるために、主音の第3音を半音下げてオルガンで演奏する。	ア ウ ①
2	2		ちようちようのふしをつくろう 「ド、レ、ミ」の3音を使って、ペアで節づくりゲームをする。 「ド、レ、ミ」の3音を組み合わせ、節づくりをする。	- 簡単に楽譜をつくることができるように、五線譜とおはじきを準備する。 - 節をつくったり鍵盤ハーモニカで演奏したりすることに慣れるために、即興的に節をつくる活動を仕組む。 - 終わった感じの節になるよう、最後は「ド」の音にすることを伝える。	ウ ②
	3		1音だけかえて、たんちようのふしにへんしんさせよう - 前時でつくったハ長調の節の第3音を半音下げ、短調の節をつくる。 - つくった節を聴き合い、気分の違いについて話し合う。 - 簡単な話をつくり、話に合うように長調と短調の節を組み合わせ、演奏する。	- 簡単に短調の節を記録できるように、前時でつくった楽譜の、主音から3音目のおはじきの色を変えるよう伝える。 - 調性が変化することで楽曲の気分が変わることを感じ取らせるために、長調と短調の節をつなげて演奏するように促す。 - 調性の変化による効果を感じ取ることができるように、2つの場面の話を作り、つくった節の組合せ方を考えるよう促す。	イ
3	4 (本時)	G ↓	きょくのかんじがかわるところを見つけながらきこう - 長調と短調のカードを並べながら鑑賞曲 G を聴取する。 - 旋律を長調と短調に変えて歌い比べをする。 - 教材曲 G を聴取して気付いたことや考えたことについて話し合う。	- 自分で鑑賞曲 G の構造を可視化できるように、調ごとに色分けしたカードを配付する。 - 長調と短調の違いを比較できるように、2つの旋律をそれぞれ長調と短調に変え、オルガンで演奏する。 - 調性が変化することで、どのように楽曲の気分が変わったか問う。 - 教材曲 G のよさや面白さについて考えさせるため、友達に紹介したいこととして、おすすめポイントについて尋ねる。	ウ

7 本時の指導（本時 4 / 4）

(1) 目標

長調と短調の違いを聴き取り、調性の変化が生み出す楽曲の気分の変化の面白さを感じ取って聴いている。
[鑑賞の能力]

(2) 展開

ゴシック・・・視点に関わる音楽の構成要素

学習活動	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）
1 代表児が前時につくった節の演奏を聴き、調性の変化について想起する。	○ハ長調の第3音を半音下げると、短調に変わることを想起させるために、おはじきでつくった楽譜の、主音から3音目のおはじきの色を変える。 ○調性の変化という音楽の見通しをもって活動ができるように、長調から短調というように旋律の調性を変えて演奏する。楽曲の気分の変化にも気付かせるために、節に合わせてつくった話と一緒に紹介する。
2 学習のめあてを知る。	きょうのかんじがかわるところを見つけてきこう
3 鑑賞曲Gを聴取する。 ①カードを並べながら聴取する。 短調→長調→短調→長調	○個人で長調と短調の違いを聴き取ることができるように、「王の行進」の部分をCDで流し、短調であることを確認する。 ○鑑賞曲Gの構造を可視化できるように、長調と短調に色分けしたカードを配付する。 ○鑑賞曲Gを聴取して感じたことを書き込めるように、調性の変化ごとに区切ったワークシートを配付する。 ◆長調と短調の変化を感じ取って、鑑賞曲Gを聴取しているか。（ワークシート、観察） A 長調と短調の変化に気付き、カードを並べながら調性の変化が生み出す面白さを感じ取って鑑賞曲Gを聴取している。 B 長調と短調の変化に気付き、カードを並べながら鑑賞曲Gを聴取している。 →調性の変化による楽曲の気分の変化について問いかける。 C 長調と短調の変化に気付かず、鑑賞曲Gを聴取している。 →長調と短調の違いを比較できるように、旋律を長調や短調に変えて一緒に歌う。
②「王の行進」と「馬のダンス」を長調、短調に変えて歌う。 【児童の反応】 ・長調と短調が繰り返し出てくるね。 ・最後は、長調で盛り上がっているね。 ・短調の後に長調の曲がくると、とても明るい感じがするね。 ・最初は、短調の旋律だったけど長調に変わっているよ。	○長調と短調の違いを比較できるように「王の行進」と「馬のダンス」をそれぞれ長調と短調で演奏する。 ○それぞれの旋律の長調と短調の感じを歌ってつかむことができるように、オルガンで演奏する。 ○楽曲の全体を通して、長調と短調の変化を確認できるように、鑑賞曲GをCDで流す。
4 鑑賞曲Gを聴取して感じたことや考えたことについて話し合う。	○長調、短調のカードを黒板に提示し、鑑賞曲Gを可視化する。 ○調性の変化と、楽曲の気分の変化の関係が分かるように、提示したカードと児童の意見を板書で整理する。 ○鑑賞曲Gの面白さについて自分の考えをもつことができるように、聴取して感じたことをもとに、鑑賞曲Gのどんなところを紹介したいか、おすすめポイントについて問う。
5 本時の学習を振り返る。	○本時の学習で分かったことや面白かったことをワークシートに記述するよう促す。

